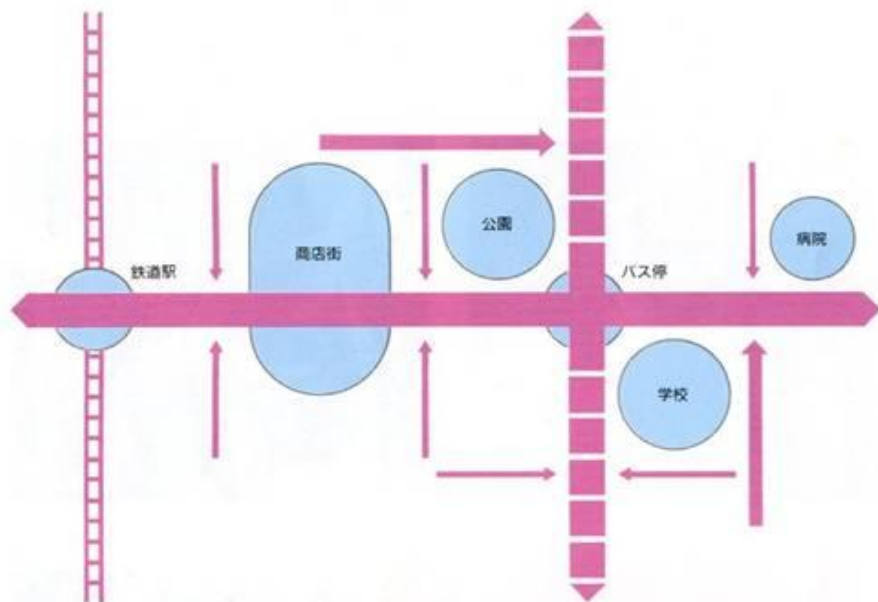


歩行者系道路とは

今や日常生活から車を完全に締め出すことは不可能です。そのため、生活道路を歩行者やその地域の人々が安全、快適に利用できるようにするには、人と車が共存できるように、工夫する必要があります。

生活道路は沿道の状況や日常生活によってさまざまな使われ方がされています。そのなかでも駅や学校、公園などを連絡し、歩行者等の利用が中心となっている道路を歩行者系道路といいます。

大阪市では、安全で快適な道づくりの一環として歩行者系道路の整備を行っています。全国でも初めての試みとして昭和55年に阿倍野区長池町で整備をして以来、みなさんのご意見も取り入れながら全市的に整備を進めてきており、これまでに64路線約20km(昭和53年3月31日現在)が完成しています。これらの道路は“ゆずり葉の道”の愛称で多くの人に親しまれていますが、もうすぐあなたの家の近くにもできるかもしれません。



ゆずり葉の道の特徴

“ゆずり葉の道”は、人と車の共存を目指した新しいタイプの道路です。不要な車を排除し、入ってきた車もあまりスピードが出せないようにするために、車道の幅を狭くし、しかもジグザグ状に変化させています。そのかわり、歩道はゆったりと広くとり、舗装もカラーブロックなどで仕上げ、歩行者が安心して気持ちよく歩けるようにしています。またこのジグザグを利用して植樹をしたりベンチを設けたりして、立話しやちょっとした休憩ができるたまり場をつくっています。

このほか、夜間の安全対策としてしゃれた照明灯を設けたり、沿道に用事のある車の停車スペースなどを設けています。

このように“ゆずり葉の道”は、制限速度以内で走れば車も不便なく使え、みんなが安心して利用できる道なのです。



城東区関目



歩道の舗装



植樹帯



停車スペース